

研究成果報告会 「東南アジア諸国の農業・農政動向：
タイ、ベトナム、インドネシア —コメの動向を中心に—」

タイ農業の動向

—価格支持政策の影響と新政権のコメ政策—

農林水産政策研究所
国際領域 井上荘太郎

- 1 はじめに 世界のコメ貿易と東南アジア
- 2 タイのコメ政策の跛行的展開
- 3 インラック政権の担保融資制度（2011年～2014年）
- 4 プラユット政権（2014年～）のコメ政策
- 5 おわりに： 持続的な農業保護政策の可能性

1 はじめに 世界のコメ貿易と東南アジア

(1)世界のコメ貿易構造

- 1) 東南アジア諸国のコメ（大陸部（輸出）と島嶼部（輸入）の相異）
- 2) 国際市場の構造：輸出
 - ・少数の輸出国（東南アジアではタイとベトナム）
 - ・輸出国の政策→品質による棲み分け
 - ・新興輸出国：カンボジア, ミャンマー等
- 3) 国際市場の構造：輸入
 - ・多数の輸入国（東南アジアではインドネシア, マレーシア, フィリピン）
 - ・アフリカ, 中東の輸入拡大

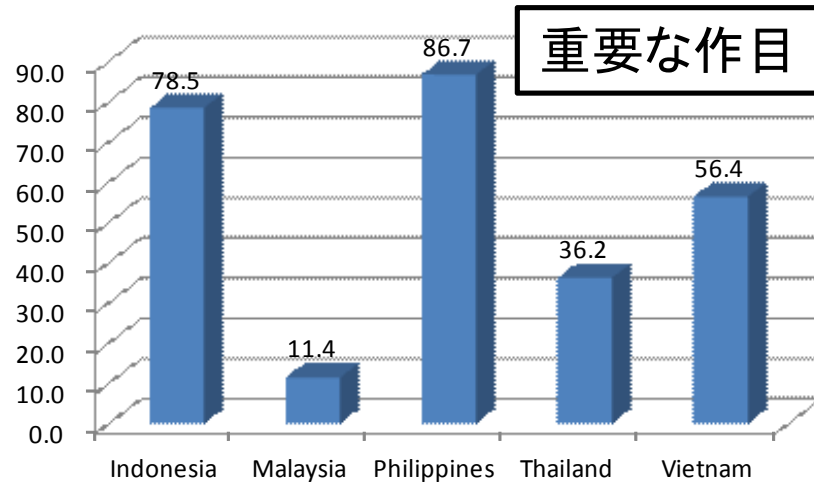
(2)各国の政策の影響

- ・東南アジアの輸出国におけるコメの保護と輸出：タイ, ベトナムの例
- ・東南アジアの輸入国における自給のための生産振興：インドネシアの例

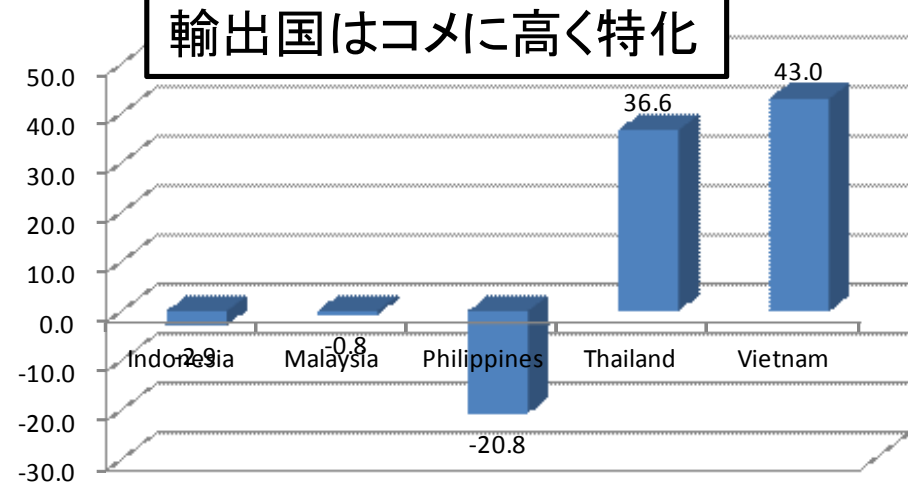
東南アジア諸国におけるコメ



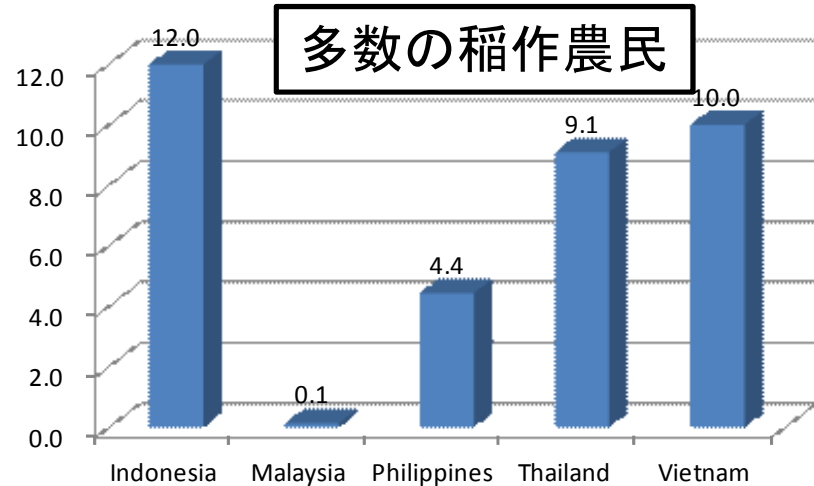
Rice in cropped area (%)



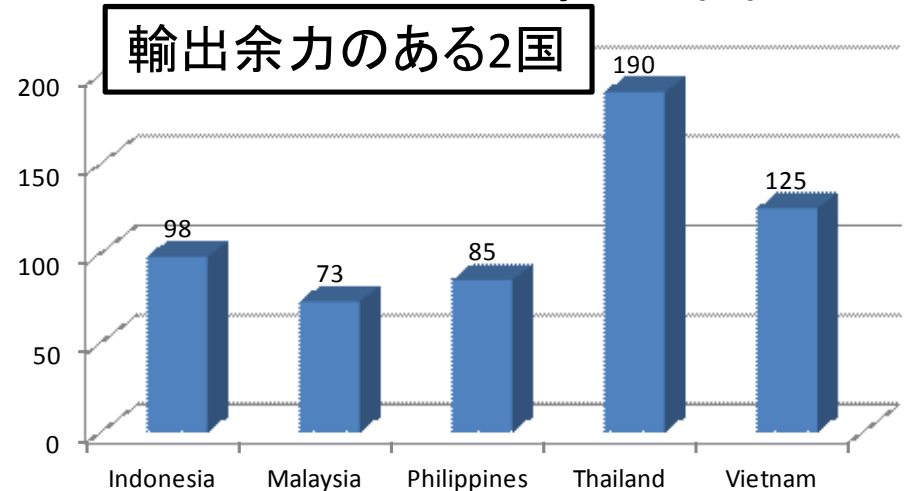
Rice in agricultural trade (%)



Number of rice farmers (million)



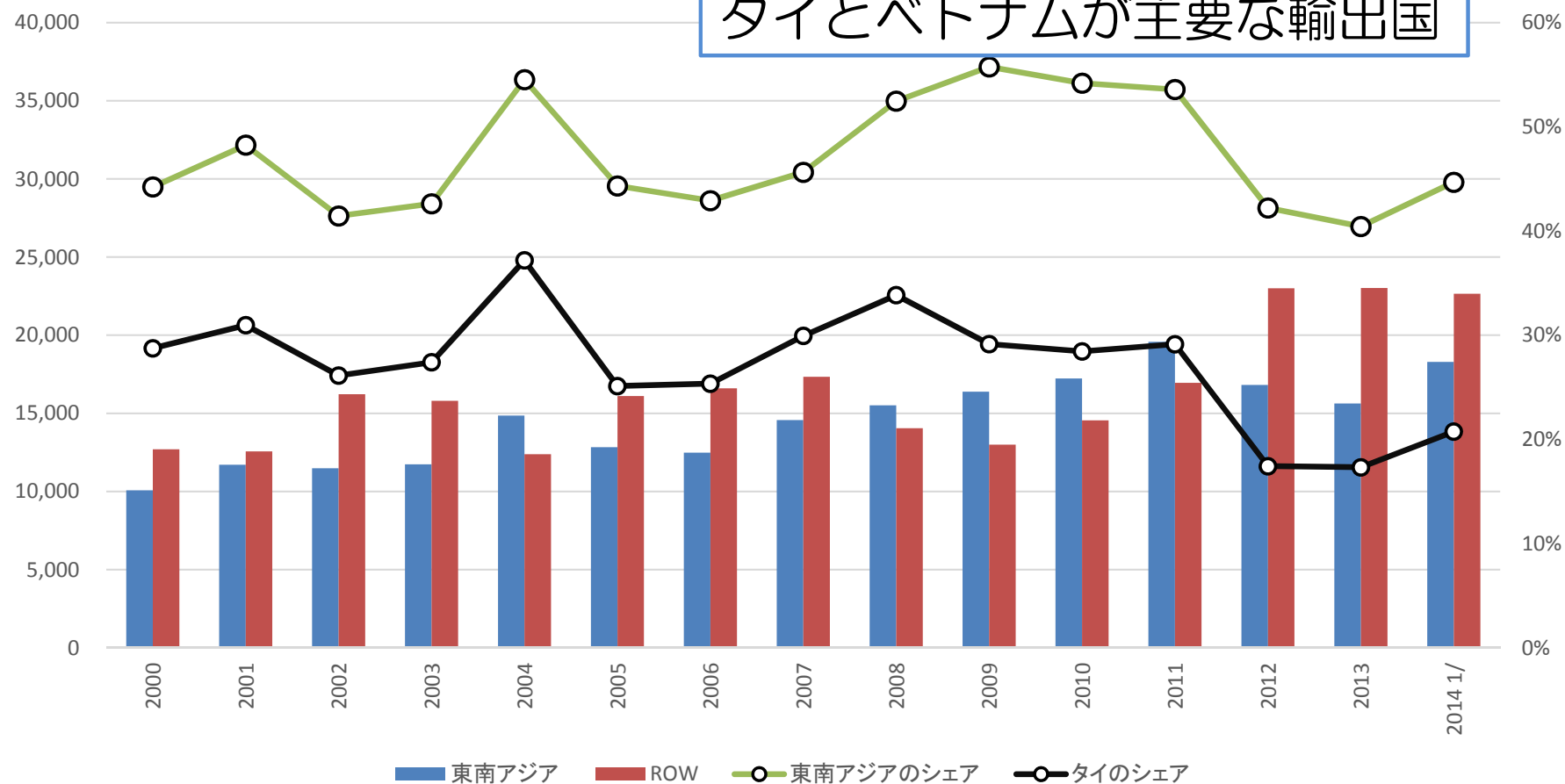
Rice self-sufficiency ratio (%)



資料: Trusting Trade and the Private Sector for Food Security in Southeast Asia, World Bank, 2012

コメの輸出：東南アジアとその他の国（ROW）

東南アジアのシェアは大きい
タイとベトナムが主要な輸出国



資料：USDA/ERS, Rice Yearbook 2014, Table 23: World rice trade (milled basis): Exports and imports of selected countries or regions

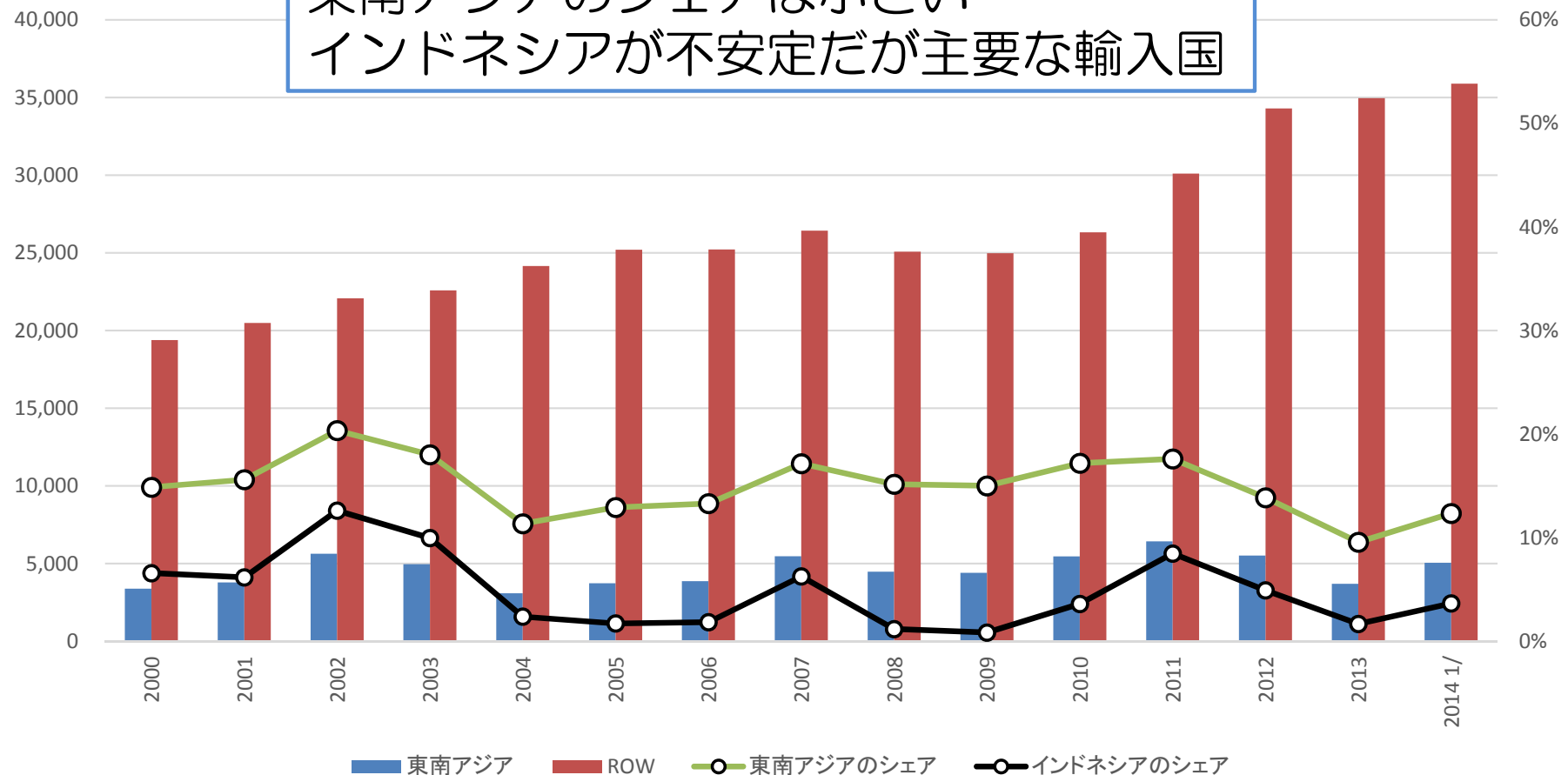
注(1)：2014年は推定値

注(2)：東南アジアはタイ、ベトナム、ミャンマー、カンボジアの合計値である。

コメの輸入：東南アジアとその他の国（ROW）



東南アジアのシェアは小さい
インドネシアが不安定だが主要な輸入国



資料：USDA/ERS, Rice Yearbook 2014, Table 23: World rice trade (milled basis): Exports and imports of selected countries or regions

注(1)：2014年は推定値

注(2)：東南アジアはインドネシア、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、タイの合計値である。

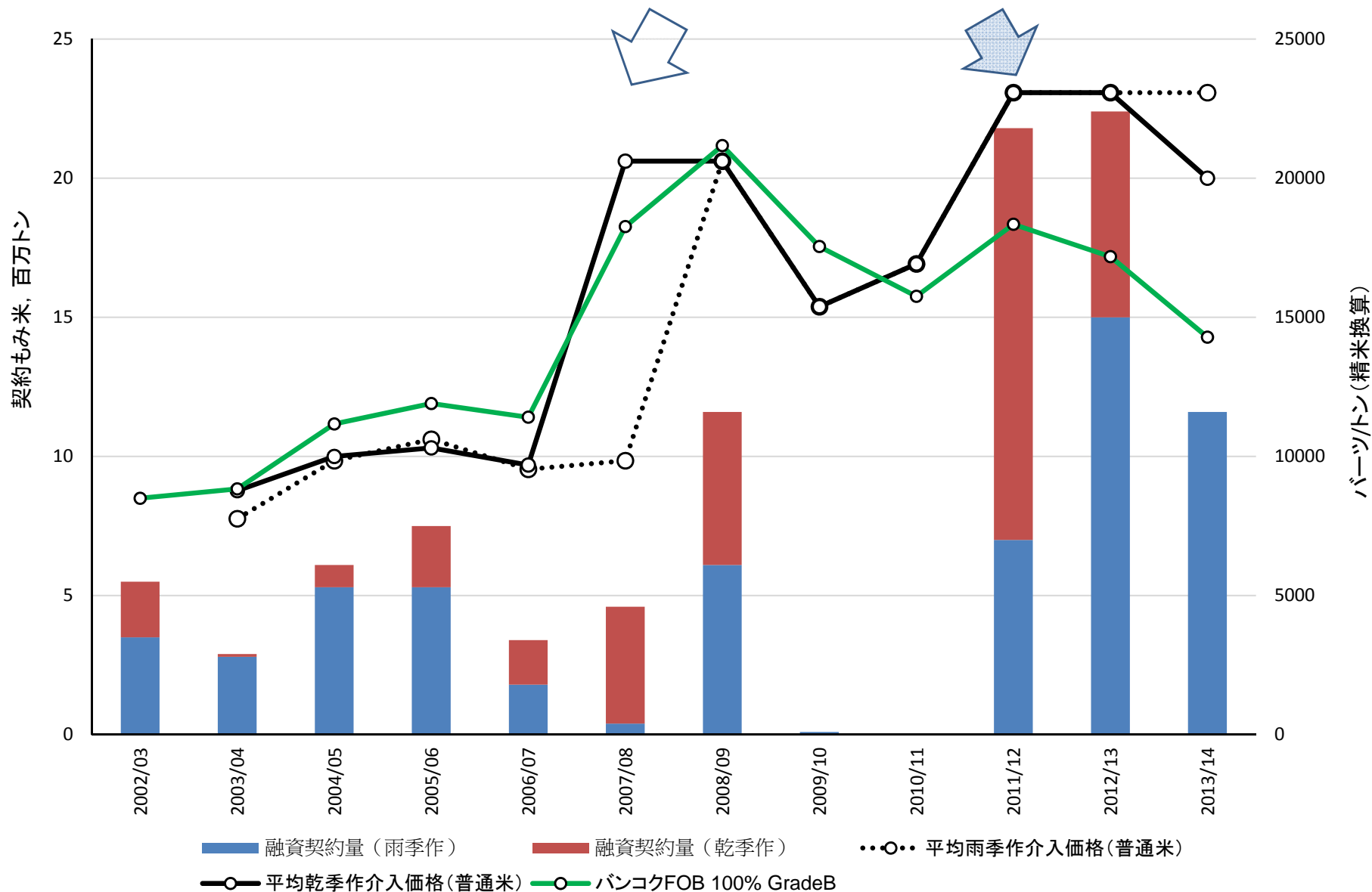
2 タイのコメの保護政策の跛行的展開

年次	政権と農業政策
2001 ～06年	タクシン政権 <u>担保融資（価格支持）拡大</u> （融資価格引上、契約数量拡大）
2006 ～07年	スラユット政権（反タクシン派） <u>担保融資の縮小</u>
2007 ～08年	サマック政権（タクシン派） <u>担保融資の再拡大</u> （融資価格引上げ、契約数量増加）
2009 ～11年	アピシット政権（反タクシン派） <u>所得保障制度への転換</u> （保障上限量付き不足払い政策、市場メカニズムの活用）
2011 ～14年	インラック政権（タクシン派） 所得保障制度を廃止して <u>担保融資制度を復活</u> （高い融資価格で、融資契約の上限量は無し）
2014年 ～現在	プラユット政権 <u>担保融資制度を廃止して新しいコメ政策に転換</u>

3 インラック政権の担保融資制度（2011～14年）



輸出価格と介入（融資）価格の乖離



資料: GAIN Report Number: TH8165, TH4021より筆者作成

コメ作付面積、販売価格、生産コスト、純収益



制度名	所得保障制度		担保融資制度		
	2009/2010年	2010/11年	2011/12年	2012/13年	2013/14年 (予測)
穀物年度					
作付面積(百万ライ)	72.72	80.67	83.4	81.04	80.85
- 雨季作米	57.5	64.57	65.3	64.95	65.00
- 乾季作米	15.22	16.1	18.1	16.09	15.85
農家販売価格(パーツ/トン)					
- 雨季作米	9,029	10,810	11,841	11,395	9,988
- 乾季作米	8,042	8,447	10,172	9,767	8,000
生産コスト(パーツ/トン)					
- 雨季作米	8,349	9,359	10,399	10,685	10,581
- 乾季作米	7,993	7,776	8,233	8,702	8,834
純収益(パーツ/トン)					
- 雨季作米	680	1,451	1,442	710	-593
- 乾季作米	49	671	1,939	1,058	-834

1 ライ ≒ 0.16ha
1 バーツ ≒ 3.7円

担保融資制度
2011年～2013年

主な変化

1. 生産刺激
2. コスト上昇傾向
3. 純収益はプラスからマイナスへ（価格低下）

比較：所得保障制度

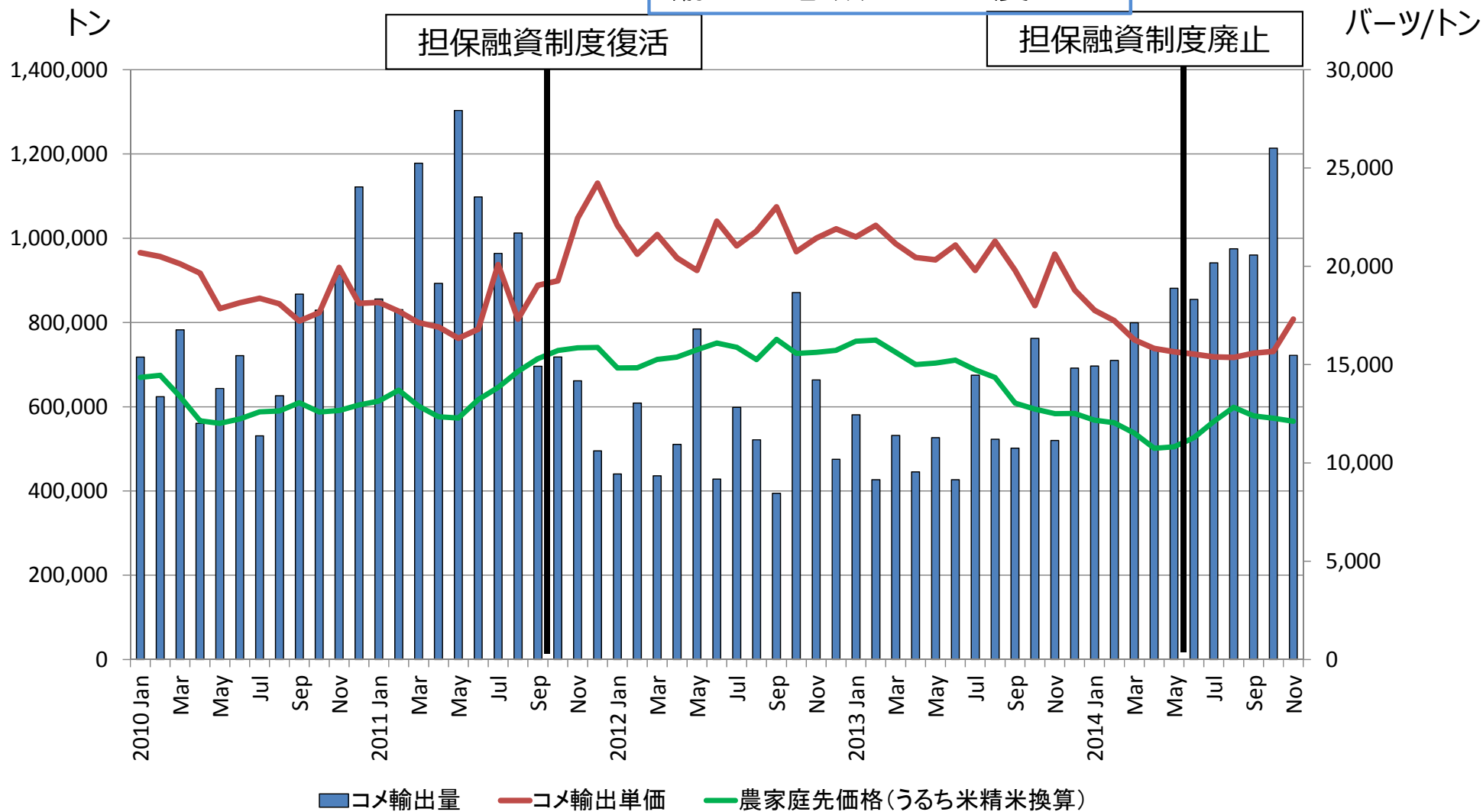
1. 生産刺激
2. コスト±
3. 純収益はプラス

資料：農業経済基礎情報， 農業経済局

タイのコメの輸出価格と輸出量

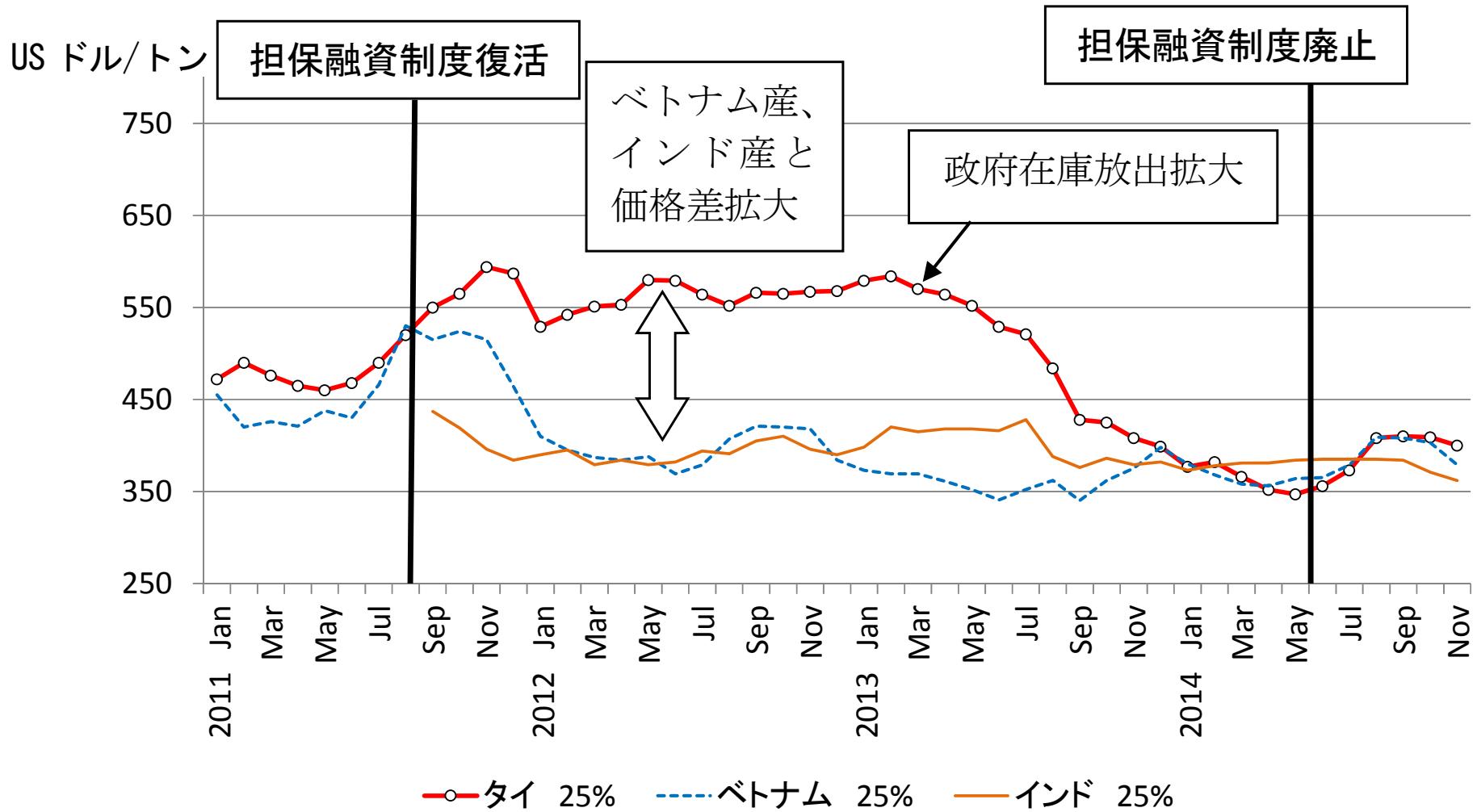


価格は高止まりから低下
輸出は急減から回復



資料: 農業経済局ホームページより筆者作成

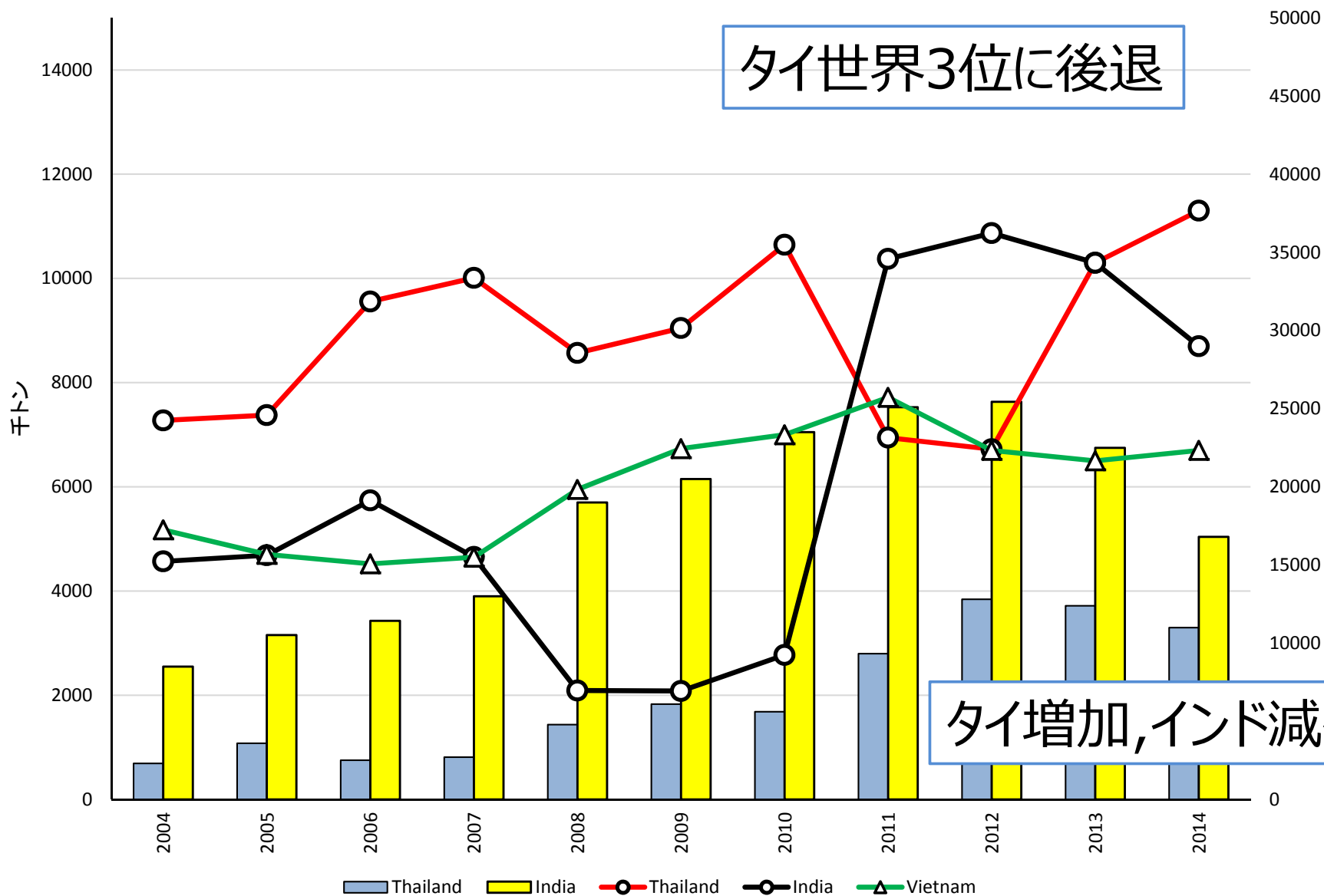
主要コメ輸出国の輸出価格



注: 国名の後の数値は碎米率

資料: FAO Rice Price Update

主要コメ輸出国の輸出量，在庫量



資料:USDA PSD Online

注:折れ線グラフは輸出量(左軸), 棒グラフは在庫量(右軸)

- (1) インラック政権の間、担保融資制度のコストは全く不透明。
- (2) クーデター後の発表では、インラック政権のコメ担保融資制度による政府の損失は、約5,370億バーツ（約1兆9,869億円）と推定される（タイ財務省，2015年2月）。
- (3) 損失の処理のため、政府は長期国債（30年償還）の発行を表明。

(1)削減対象となる合計AMS：

- 2014年のWTOへの通報では、2008年のコメのAMS(297億B)は、国内生産額(3067億B)の9.67%であり、デミニミス(10%以下)に該当することから、合計AMS(1.69億B)に含まれない。

(2)懸念される点：

- 2011年、2012年のコメのAMSはデミニミスを超過し、合計AMSは約束水準(190億バーツ)を超過する可能性がある。
- 2013年以降の、融資価格を下回る価格での輸出拡大は、輸出補助金に該当する可能性がある。

(1)国内への影響：所得保障制度から継続的な影響

- ①作付面積：拡大（80.7百万ライ（2010/11年）→83.4百万ライ（2011/12年））
- ②生産コスト：上昇（9,360B/t（2010/11年）→10,400B/t（2011/12年））
- ③農家純収益：乾季作で大きな変動
671B/t（2010/11年）→1,940B/t（2011/12年）
1,060B/t（2012/13年）→-834B/t（2013/14年）

(2)貿易への影響

- ①輸出価格：上昇（2011年、2012年）、競合国との価格差拡大
- ②輸出量：減少（2011年と2012年には世界第3位まで輸出ランキング低下、2013年首位復帰）。
- ③政府在庫：増加（2011年、2012年）。2013年以降、政府が放出拡大し、在庫縮小。

(3)多くの問題点

- ①コメ経済の混乱：生産コスト上昇、取引業者間の競争阻害、普通米への生産シフト、輸出業者の海外シフト等
- ②報道された不正：品質検査、在庫の不正管理、密輸、不透明払下げ、政府間取引等
- ③財政負担の拡大：輸出困難化による在庫増加と資金枯渇、融資金支払い遅延等

⇒コメの産業競争力を毀損

プラユット政権の政策運営方針

Mission Statement and Policies of the Head of the National Council for Peace and Order (NCPO)(2014年6月9日)

(1) 目標：国民の和解と社会の安定

(2) 経済政策方針

財政規律の遵守を表明

⇒省庁主導型の政策運営へ

⇒コメ市場への政府介入の縮小へ

貿易・投資の自由化には慎重な姿勢

⇒AECにおけるコメ貿易自由化への影響

(実質的なコメ輸入規制の継続?)

プラユット政権のコメ政策の内容：

(1) 様々な混乱收拾策

- ①未払いの融資金の迅速な支払い
- ②在庫検査による在庫量の検査⇒実態の透明化
- ③担保融資制度廃止と所得保障制度への非復帰表明
⇒政治家の介入排除

(2) 担保融資制度廃止にともなう緊急対策

(3) 稲作農家への一時金支払

(4) (従来の)農業生産支援政策の継続

(2)担保融資制度廃止にともなう緊急対策

生産コスト削減計画（4,787バーツ/トンから4,358バーツ/トンにコスト削減）

- 1) 化学肥料の小売価格の引下げ（販売業者に1袋あたり40-50バーツの価格引下げを要請）
- 2) 農薬の小売価格の削減（販売業者に5-10%の価格引下げを要請）
- 3) 種子価格の引下げ（平均で1kgあたり5バーツの価格引下げをPR活動や店舗検査などで実施）
- 4) 収穫サービス料金の引下げ（1ライあたり50バーツの引下げを業者に要請）
- 5) 200バーツ/ライの水田地代の引下げ（地主と小作の登録, 1ライあたり200～500バーツの地代引下げを要請）

⇒ 統制的なアプローチ

農家支援融資, 市場対策: 直接介入から間接介入へ

- 1) 農業・農業協同組合銀行による低利融資: 対象は, 農家, 農協
- 2) 市場振興策: ①新市場開拓, ②国内と海外のコメ市場の連携, ③利子補給（在庫保有の業者, 農家）

【市場対策としてコメの目標価格の設定】

目標価格: 2014/15年産の雨季作のもみ米（普通米, 水分量15%以下）で8500バーツ/トン（7月）

市場価格が, 目標価格を下回る場合, 市場価格より100～200B高い価格で買取る民間精米業者に金融支援する。もみ米の購入代金を, 民間精米業者が借入れにより調達する場合, 政府は借入金の利息を, 年利3%分補助する。

(3) 稲作農家への一時金の支払い

- 1) 2014年10月に、1農家あたり1万5000バーツを上限とする1ライあたり1000バーツの一時金の支払い実施を発表（雨季作）
- 2) 340万世帯、総額400億バーツの予算規模（1戸あたり平均約11,800バーツの支払い）となる
- 3) 収穫期になっての政策実施発表であり、生産刺激効果の無い直接支払いになっている

(4) (従来の) 農業生産支援政策の継続



- 1) コスト低減と収量上昇のための技術普及
- 2) 種子バンクの設立
- 3) 作物適性に応じたコメ生産適地の特定と転作誘導
- 4) 水資源開発

- 1 担保融資制度の引き起こした**混乱の収拾**
 - 2 価格支持政策の廃止に伴う緊急対策：**価格の再調整**
 - ①保護政策の影響によるコメの生産**コスト上昇の縮小**
 - ②関連業界団体を集めて価格引下げに同意させる**統制的なアプローチ**
 - ③農産物価格政策：政府は金融支援の形で**間接的な対策**を実施
 - 3 生産刺激効果の無い**効率的な所得移転政策**：一時金支払い
 - 4 生産性向上対策：生産支援政策の継続
- ⇒プラユット政権のコメ政策に関して、今後、懸念される点：**政策の持続性**
- ①一時金支払いの継続
 - ②投入要素価格の抑制の影響
 - ③民政移管時には再び農業保護が拡大？

5 おわりに 持続的な農業保護政策の可能性

- 1 コメ担保融資制度の多くの問題⇒ タイのコメの**産業競争力を低下**
- 2 プラユット政権の政策転換：農業（コメ）保護の縮小
民政移管（2016年）後，**農業保護は再拡大？**

3 考察：

①コメ保護政策の縮小の経済的な影響

- ・政府介入の影響が縮小⇒コメ供給が**価格メカニズム**に沿って合理化
- ・生産刺激が縮小⇒コメの生産適地外での作付規制（**資源管理**）が容易に
- ・コメの国際市場に対しては，**量の競争から質の競争へ復帰**

②中所得国段階のコメ輸出国であるタイにおける持続的な保護政策に求められるもの

- ・有効性： 適切な農業保護（所得再配分）水準のための合意形成
- ・効率性： 小さい厚生損失（**所得保障制度**（上限付の不足払い）の優位性）
- ・透明性： 少ない不正機会，情報公開
- ・公平性： 効果が大規模農家に偏在せず，貧困層を重点的に支援
- ・中立性： コメの競争力政策との両立